

2018年度JLA中堅職員ステップアップ研修(2)
領域「図書館を運営する」

自治体行政と 図書館経営の基本

日時:2018年10月9日(火)12:30-15:00 会場:日本図書館協会研修室
担当講師:豊田高広(愛知県田原市中央図書館)

豊田高広(とよだたかひろ) 自己紹介

1958年、静岡市生れ。81年、静岡市役所任用。94年、市立中央図書館に配属。開設準備ののち館長を務めた市立御幸町図書館は課題解決支援の取組により2007年、Library of the Year会場賞。10年、愛知県の田原市中央図書館長就任。「元気はいたつ便」が16年「認知症の私と輝く」大賞受賞。「公共図書館員のタマシイ塾」実行委員会代表。趣味は能楽とTVアニメ。読書は趣味ではなく生活そのもの。Facebookはほぼ毎日更新中。

著書

『図書館はまちの真ん中』(勁草書房)、『市場化の時代を生き抜く図書館』(時事通信社)いずれも共著。他に論文多数。2017年4月から毎日新聞朝刊東海面にコラム連載中。

この講義のねらい

- 1 図書館の社会的役割や自治体組織としての図書館の位置づけを理解し、自館の施策やそのあり方について考える。
- 2 自治体行政のしくみを知り、図書館における予算、人事、施設管理等について理解を深める。
- 3 図書館を経営する者の視点を養い、各自が図書館経営、雇用や人材育成等について学び、図書館施策やその課題について俯瞰的にとらえることができるようにする。

0 受講予定者の学びたいこと、お悩みから

- ① 数値目標を達成することが自己目的化、経営哲学はどこに？(貸出数、来館数、開館時間、経費削減、施設縮小...)
- ② 地方創生、会計年度職員、公共施設再編...新制度への対応に追いつまれている、どうしたらいい？
- ③ 自分の中のスペシャリストとゼネラリストのバランス、どうとる？
- ④ 本庁職員や指定管理者との意思疎通や交渉、どうする？
- ⑤ 現場は大事だけど、カウンターからの現場目線だけでいいの？
- ⑥ 単年度の運営目標だけで、大きな変化への対応から目をそらしていないか？

1 図書館長のように考える

① 図書館長のように考える意味は？

図書館長でなくても、図書館長のように考える意味は何か？

- キャリアアップに備えるため
- 図書館経営を補佐するため
- 自分自身を大切にするため

1 図書館長のように考える

② T市図書館長は何をしているか？

火曜日 午前・教育部課長会に出席 午後・分館と県立高校巡回
水曜日 午前・友の会関係者と面談 午後・〇〇計画の草稿を執筆
木曜日 午前・「週例会義」を主催 午後・希望職員と個人面談
金曜日 午前・□□課提出資料を執筆 午後・隣市図書館と打合せ
土曜日 午前・「週例会義」資料作成 午後・カウンター、急な来客
※合い間に、カウンター、配架、選書等の現場仕事もやります。

1 図書館長のように考える

③ 図書館長はどう考えるか？

- 使命とビジョン(の持論)から考える ●住民の目線で...
- 中長期の視点(もう自分はいないかも)で
- 戦略的(後出)に ●資源の制約と調達から
- ルールは変えるもの/つくるものと
- 政治的(敵を減らし、味方を増やす)に
- システム思考で(例:図書館をより大きなシステムとの関係で)
- 失敗・最悪の事態・例外的状況から
- 職員と組織の成長に役立つかどうかから

7

2 自治体組織としての図書館

① 「公の施設」としての図書館とは？

- 「公の施設」(地方自治法244条1項)＝「住民の福祉を増進する目的をもって その利用に供するための施設」である。→正当な理由なく住民の理由を拒んだり、不当な差別的取扱いをしてはならない。(同条2、3項)
- 条例の定めるところにより、指定管理者に管理を行わせることができる。
- 「公共施設等総合管理計画」の対象に→規模抑制・機能集約・複合化・維持コスト縮減...

8

2 自治体組織としての図書館

② 教育機関としての図書館とは？

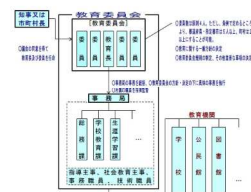
- 「地方教育行政の組織及び運営に関する法律(地教行法)」30条で定めるところの「教育機関」である。
- 教育委員会が管理する。(管理運営の基本的な事項は、教育委員会規則で定める。)
- 図書館は「行政」か？学校と比較した場合...
- 予算編成、人事、議会折衝...

9

2 自治体組織としての図書館

③ 教育機関としての図書館(文科省HPより)

《教育委員会の組織のイメージ》



10

2 自治体組織としての図書館

④ 「お役所」としての図書館とは？(1)

- 正規職員は、図書館内外はもちろん、教育委員会内外を問わず、異動が行われるのが普通。司書職で異動がない場合、後で述べる他部署との相互理解という面では不利になりがち。
- 図書館は「不要・不急」と考えられることが多い。さまざまな連携や、必要な資源の確保のために、他部署との相互理解と信頼の構築は重要な課題。この視点から、後述の「行政・議会支援」は特別な意義を持ち得る。

11

2 自治体組織としての図書館

④ 「お役所」としての図書館とは？(2)

- 予算・決算、条例、指定管理者等、自治体運営上の重要事案は、議会での議決や報告を要する。したがって、議会・議員の理解を得ることも重要。
- 図書館計画(後述)に限らず様々な計画に図書館の位置づけを得ること、学校図書館・議会図書室との連携や他部署の事業の実行に協力すること、監査・行政評価・事業仕分け等、様々な「評価」を受けること...

12

2 自治体組織としての図書館

⑤ 新聞記事配信から「行政支援」へ(1)

①田原市図書館では、2002年の開館以来、すべての購入紙の田原市関係記事をクリッピングし、毎朝、市役所各課に配送していた。(日野市立図書館に在籍していた初代館長により導入。行政支援の原点)

②2010年、三重県鳥羽と田原市伊良湖を結ぶフェリー航路廃止の動きが表面化。市を挙げての存続運動と運動し、「再発見！鳥羽⇄伊良湖フェリー展」を鳥羽市立図書館と同時開催。(行政支援のもう一つの原点。)

24

2 自治体組織としての図書館

⑥ 新聞記事配信から「行政支援」へ(2)

③新聞配信サービスの問題点＝コストパフォーマンスと著作権処理⇒庁内アンケート実施⇒廃止、代替策(行政支援サービス、許諾済新聞の記事見出しDB公開)を2012年度途中から実施

④行政支援サービスの基本メニューは(1)レファレンス、(2)複写、(3)貸出、(4)政策・イベントPR展示(パブリックコメントを含む)、(5)郷土・行政資料の配布である。基本的には従来からある手法の新しい組み合わせ。

24

2 自治体組織としての図書館

⑦ 新聞記事配信から「行政支援」へ(3)

⑤2013年度は13件、14年度は18件と低迷したが、利用申し込みの簡素化や、市内で最も人が集まる立地を生かした展示協力で、16年度は57件に。

⑥2016年度以降、セキュリティ強化のため市役所職員のインターネット環境が情報検索には不向きに。

⑦2017年度、月1回、市職員をターゲットとした市役所出前サービスの試行を開始。移動図書館用のPCと、オススメ本を詰めたケースを持参。実施前にはイントラネット掲示板に告知と実施の意義を掲載。(返却ポストは中央図書館開館時から市役所内にある。)

25

2 自治体組織としての図書館

⑧ 議会図書室の活性化へ

①2015年度、上記メニューに加え議会図書室整備に協力する「議会連携」を開始、諸方面から注目されるように。

②視察先に関するレファレンスに始まり、最近では本会議の一般質問や、委員会での審議に関するレファレンスも。議員からは「根拠のしっかりした調査結果をもらえるのが大変ありがたい」との評価。

★図書館法上、議会図書室については「連携し、協力し、...相互貸借を行うこと」とされている。つまり当然のサービス。「民主主義の砦」の実質化！)

25

2 自治体組織としての図書館

⑨ 行政支援と「図書館の自由」

●行政支援については、「図書館の自由」の前提となる「図書館の中立性」の観点から慎重であるべきとする考え方もある。

●パブリックコメント展示などに際し、多様な意見、対立する意見のある問題については、それぞれの観点に立つ資料を幅広く紹介するなどの配慮が求められる。

27

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

① 計画とは？

計画とは、「目的・目標を実現するために構想を練り、その構想を具体化するために必要な段取りや手順を考えること」。加藤昭吉『「計画力」を強くする』講談社ブルーバックス(2007)

●目的: 誰の、どんな価値を実現する？

●目標: その価値は、いつまでに何ができたら実現する？

●構想: 目標を実現する手立て(シクミ・シカケ)を具体的にイメージすると？

●段取り: 目標を実現するにはどんな活動・作業が必要？

●手順: 段取りを具体的にどんな順番で実行する？

28

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ② 戦略とは？

- 「目標」とは、「目的」をより具体的に実現可能な(と思える)形にしたもの。現在の内的・外的環境で実現可能な限りにおいて、もっとも効果的かつ効率的な目標を！
- ベストな目標を設定するには、「戦略」が必要。戦略は、現在地から目的地まで行くためのルートを選択肢に、「こういう場合はこれがベター」と優先順位を付けたもの。旅行計画を想起しよう！
- 複数案のうちの次点以下も役に立つ。プレゼンでA案を通すには、同じ目的で立てられた別の選択肢A'案と比較するのが賢明。
※酒井穰『あたらしい戦略の教科書』ディスカバー21(2008)

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ③ 戦略と連携の深い関係とは？(1)

- 1 図書館の資源は有限、影響力も限定的
→戦略に連携は不可欠(特に課題解決支援)
- 2 戦略なき連携は無意味(連携維持に資源をとられる)
→連携より連動、ネットワークからネットワークングへ
- 3 既存組織を活かして連携コストの削減を！
→例:計画策定には常設の組織(協議会等)を活かす

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ③ 戦略と連携の深い関係とは？(2)

4 交渉が重要！交渉で一番大切なのは目標。相手の「頭の中」を知り、尊重しつつ、「不等価交換」を成立させよう。ぶっつけ本番はできるだけ避ける。

※ダイヤモンド『ウォートン流 人生のすべてにおいてもっともトクをする新しい交渉術』集英社

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ④ 市場戦略の基本から考える(1)

- 市場戦略の基本はスイート・スポットを突くこと。
- 「顧客(市場)が求め、自社ができ、競合にはできないこと」がスイート・スポット。スイート・スポット(SS)との関連で、三つの代表的戦略とは？

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ④ 市場戦略の基本から考える(2)

- ①「攻め」の戦略:現在のSSをどう有効活用するか。
自社の強みを強化>レファレンス強化でビジネス支援。
- ②「守り」の戦略:現在のSSをどう維持していくか。
今の顧客を囲い込み>ポイント制や読書手帳を採用。
- ③「成長」の戦略:将来のSSをどう広げていくか。
新しい能力獲得>ICT技術者を確保しデジタル・コンテンツ分野に進出。

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理 ⑤ マーケティングの基本を押さえる

- このサービスはどんな人がどんな状況でどう利用するのか、イメージしよう！そのためにも「外の人」との交流を。
- ポイントは、市場を「細分化して(セグメント)、絞って(ターゲット)、ターゲットにとっての価値は何かを伝える(ポジション)」というマーケティングの基本(コトラーが提唱)。※
- 新しいサービスは新しいセグメントから！
※たとえば、コトラー他『社会が変わるマーケティング』英治出版には、図書館を含むさまざまな公共分野のマーケティング事例が紹介されている。

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑥ 利用者をイメージ(例:健康医療情報)

1 細分化する(セグメント)

健康や医療に関心がある人(患者、患者の家族健康不安のある人、医療従事者)

2 絞りこむ(ターゲット)

たとえば患者や患者の家族をメインに想定。ニーズには、専門用語の解説、治療法や診療機関、同じ病気の人の経験談、闘病生活...

3 ターゲットにとって価値は何か伝える(ポジション)

医療機関より気軽に・分かりやすく、インターネットより正確で・体系的な知識が手に入る

26

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑦ サービスのシカケを考える

目標を考えるときは、ターゲットを明確にするだけでなく、ターゲットにある価値を提供するための具体的な方法=シカケ(構想)を考えることが必要。マーケティングの4要素(4P)はシカケを考える参考になる。

①製品(Product)←サービスも一つの製品と考えて。

②価格(Price)←顧客のコストも考慮。

③流通(Place)←館内限定という法はない。

④販売促進(Promotion)←配架の工夫、PR等

27

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑧ マーケティングの基本原理は？

1 住民の目線に徹する。What's in it for me?

2 市場を細分化して、ターゲットを定める。

3 競争相手を特定する。

4 マーケティングの4P(製品、価格、流通チャネル、プロモーション)を利用する。

5 活動をモニタリングし、修正を加える(=評価！)

(コラー他『社会が変わるマーケティング』英治出版より)

27

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑨ ブランドになろう:役立つ→愛される

スタバのような、他のブランドの力を借りるより、自ら期待を上回る価値を提供し続けることで「当地に過ぎたる」地域ブランドとしての図書館になろう！

ブランドの機能...「なぜ2番ではなく1番を？」それは「安売り競争」に巻き込まれないため。具体的には...

1 類似製品と識別する

2 製品への信頼の証(品質保証)「叱られない」

3 製品に意味(物語)を与え、それを象徴する

図書館は地域のブランドづくりを支援できる

28

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑩ 図書館の経営資源と優先順位は？(1)

・人と組織、資料、設備(システム)、予算、縁、評判...優先順位を考慮！

・サービスと人は不可分→館員の能力やモチベーション向上は特に重要。

・評判も重要な資源。顧客の獲得・協力や資源の確保につながる。

・図書館外の資源(縁)を活用しよう。ex.大学連携、協議会委員etc.

29

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑩ 図書館の経営資源と優先順位は？(2)

・多くのリスク要因は、見方によっては資源(リソース)

ex.事業仕分けは、図書館をPRするチャンス。

非・司書職の発想とワザは希少資源。(イラスト、演劇...)

30

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑪ 経営資源をどう調達・確保するか？(1)

- 1 自治体にとって優先順位の高い課題に対して図書館がとろうとする戦略を提示し、それを事業として展開するために必要な資源であることを、首長・教育委員会・官房部門に理解してもらうのが根本。
- 2 事業としての持続性や中長期の展望を元に資源確保の見通しを立てる必要がある。(ハコ物は建設より維持費が高くつく、専門職の成長は時間がかかる、地元の書店は存続できるか、労働市場の今後の動向は、自治体の長期的な財政見通しは、補助金は切れたときにどうするかetc.)

31

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑪ 経営資源をどう調達・確保するか？(2)

- 3 流通や情報技術の急激な変化により、資源の調達・確保にも革新の波が...
- 4 人材と予算の調達は、官房部門との「連携」の要素が大。「交渉」が鍵をにぎる。3③のスライドを参考に。

32

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑫ リスクマネジメントとは？(1)

優れたリスクマネジメントは究極のサービスマネジメント！

・いちばん重要なのは価値の共有と優先順位の明確化。

例：TDLのSCSE(安全、礼儀、ショー、効率)。効率という名の(手抜き)が優先されがち。

・「笑顔」の危機管理。笑顔は遺伝子レベルの「友好の証」。「笑うから楽しい」。

33

3 図書館の計画・戦略・資源管理

⑫ リスクマネジメントとは？(2)

・「問題利用者」のマネジメントは重要。図書館の対応が問題利用者を生む!?

・環境に適応する力の低下は最大のリスク。

余裕の創出、残業の減少、カイゼンのシクミ化を！

・いざというときの覚悟を。ビル・ゲイツの「悪魔のメモ」。危機管理マニュアルもその一種。

34

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑬ なぜ生涯読書計画を策定したか？(1)

- 1 2016年度「まち＊ほん 生涯読書振興計画」スタート。

「まち＊ほん」＝「まち(まちづくり)」掛ける「ほん(読書)」

- 2 「子ども読書活動推進計画」の後継。図書館計画を兼ねる。市行革大綱ともリンク。図書館協議会を審議機関に位置づけ。→策定・進行管理コストを縮減すると同時に、図書館計画の位置づけアップ。

35

3 図書館経営の計画・戦略・資源管理

⑬ なぜ生涯読書計画を策定したか？(2)

- 3 重点的に取り組む施策＝戦略的目標として、以下の5つのテーマを掲げる。

①学校図書館の充実、②地域間格差の解消、③読書(情報)弱者の支援、④地域文化資源デジタル化の広域的取組、⑤市民協働・市民活動の促進とPR

- 4 「読む」の再定義→住民の課題解決のために「読む」ことも射程に。

36

4 内部組織を活性化する ① 「学習する組織」になろう

学習組織とは...

目的を達成する**能力**を効果的に伸ばし続ける**組織**

(センゲ『学習する組織』英治出版)

37

4 内部組織を活性化する ② 「学習する組織」に変わるには？

5つの「技術」を開発する！

- ①システム思考
- ②メンタルモデルの克服
- ③自己マスタリー
- ④共有ビジョンの構築
- ⑤チーム学習

(センゲ前掲書による)

38

4 内部組織を活性化する ③ システム思考を身につける

◎どんな物事も、より大きなシステムの一部。「部分最適より全体最適(三方よし)」!

あなたの図書館を「売り方」「買い方」「世間」の「三方」から見てみよう。

「成長の限界」が見えてきたら、図書館で借りない「8割」に目を向けよう。

部分と全体の関係が分かる「海図」を共有(各種の計画とそれにもとづく目標管理)

39

4 内部組織を活性化する ④ メンタルモデルを見直す

◎壁にぶつかったら、今までの「想定」「常識」を疑う。

「同質」メンバーが「一丸」の組織は危うい。

異文化を大切に。「異分野・異業種」「ヨソ者・バカ者・ワカ者・ギレ者」と付き合おう。

過去の栄光・縄張りを疑い、目的を直視!

40

4 内部組織を活性化する ⑤ 自己マスタリーを奨励する

◎自己マスタリーとは、目的を達成するために自分自身を成長させること。

自分自身の現実と理想のギャップの認識を保ち続けることから、成長のための真の学習がはじまる。

発表しよう。心の師を見つけよう。独り考えるより試作品をつくり、他者の評価を受けよう。小さい失敗の積み重ねに学ぼう。

旅・人・本は最高の学習ツール(出口治明)

41

4 内部組織を活性化する ⑥ 共有ビジョンを構築する

◎<お義理ではなく心からの参加と献身を育む共通の「将来像」を掘り起こす>センゲ

Vision & hard Work(山中晋也の師の言)

ビジョンはいっしょにつくるプロセスが大事。自分の「思い」が生かされてこそやる気に。

誰もが「対等に、安心して」意見を言い合える場づくりこそ重要。匿名も否定しない。

田原の「トラブル・よいこと・提案シート」。

42

4 内部組織を活性化する

⑦ チーム学習を実践しよう！

◎ビジョンの実現に向けてメンバーが相互に啓発しあうこと。特に「対話」を通じて！

人材育成はOJTが本道。ただし、OJTは放置ではない。OJTのしくみをつくろう。

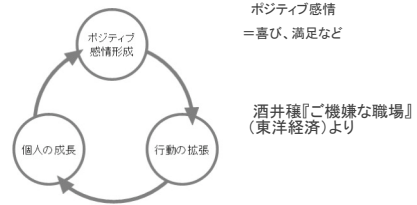
会議もメールも業務日誌(前出の「シート」)も学習ツール。「決めない会議」も必要。

スタッフラウンジをラーニング・コモンズに！

43

4 内部組織を活性化する

⑧ 「明るい職場」は「人の成長」を促す。



44

4 内部組織を活性化する

⑨ 「職場学習風土」の3つの要因

学習を促進する職場は、やっぱり「明るい」...

◎ 互酬性規範
「お互い様」「助け合い」が当たり前

○ オープンコミュニケーション
「安心して何でも言い合える」

△ 学習資源(時間・予算・報酬etc.)

中原淳『職場学習論』(東京大学出版会)より

45

4 内部組織を活性化する

⑨ アンラーニングと「信頼」

創造(破壊)のためには、アンラーニング(学習棄却)が必要。

アンラーニングとは「メンタルモデル(常識)」を疑い、「前例」からはみ出すこと。

アンラーニングを支えるのは「信頼」、即ち危機的状況でも期待に応え合う関係。

(例) 予約資料に挟む名前入りレシートの流出事故が相次いだ。そのとき、どうする？

46

4 内部組織を活性化する

⑨ 「心理的安全」が生産性を高める

心理的安全※＝「関連のある考えや感情について人々が気兼ねなく発言できる雰囲気」＝アンラーニングを支える「信頼」の前提

たとえば、同僚が見ているところで支援を求めたり、失敗の危険を指摘したりできること。

序列の上下や会議の運営法に左右される。

メリット:率直に話せる、考えが明晰に、意義ある対立、失敗の緩和、イノベーション、保身より目標達成、責任感の向上

同調圧力が前提の「なかよしクラブ」とも異なる。

※エドモンドソン『チームが機能するとはどういうことか』英治出版

47

4 内部組織を活性化する

⑩ 「心理的安全」を生み出す行動とは

直接話のできる親しみやすい人になる。

現在持っている知識の限界を認める。また、自分もよく間違えることを認める。

メンバーの意見を重視していることを示す。

失敗は学習する機会だと強調する。

具体的ですぐ行動に移せる言葉を使う。

望ましいこととそうでないことの境界を明確に。境界を越えたことについてはメンバーに責任を。

(エドモンドソン『チームが機能するとはどういうことか』英治出版)

48

4 内部組織を活性化する

① T市図書館の組織活性化のシカケ

垂直と水平の「分断」によって、秩序と引き換えに創造力を奪われないために。

- ・「市図書館の目標」とチーム毎の目標管理(PDCA)
- ・グループウェアを活用した館内情報共有と意思決定
「トラブル・よいこと・提案」書込み⇒週例会議⇒マニュアル変更等
⇒グループウェアAIPOで周知
- ・多様な市民団体との連携：友の会からCode for ...まで
- ・おおきなかぶ会議：月1回、館長室で、どなたでも。

49

5 希望、絶望そして勇気

① 日本から公共図書館が消える日

自治体の半数が消滅の危機に瀕し、高齢者人口が4000万人のピークに達するといわれる25年後の日本。

- 図書館を設置し維持できる自治体がほとんどない
- 図書館資料を供給する出版関連業界は壊滅状態、図書館もデジタル化の趨勢に追いつかない
- 4000万人の高齢者に本を読む人はほとんどいない
- 労働力は貴重・希少で図書館は働き手を確保できない

毎年建てられ続けている図書館も、夕張市のように、25年後にはすべて閉館し、建物は転用されるか廃墟に...

50

5 希望、絶望そして勇気

② これからの図書館員に託すことは...

公共図書館(そして役所)の存在意義は?...地域とその住民の課題に挑み続け、大小のイノベーションを続ける。

公共図書館は、住民にとっての新しい価値を創造する役所内ベンチャーであらうとしてほしい。

それは、図書館(そして役所)で働く人たちに、苦勞と共に、やりがいのある創造的な人生と、100年時代の人生戦略のための無形資産(グラットン『Life Shift』)をもたらす。

図書館のためではなく、地域住民と、そこではたらくあなた自身のために、挑み続ける図書館員であってください。そのために必要なのは...

51

5 希望、絶望そして勇気

③ ホッファーの言葉

「希望ではなく勇気」

(エリック・ホッファー)

52

5 希望、絶望そして勇気

③ ホッファーの言葉(承前)

自己欺瞞なくして希望はないが、勇気は理性的で、あるがままにもものを見る。希望は損なわれやすいが、勇気の寿命は長い。希望に胸を膨らませて困難なことごとにかかるのはたやすいが、それをやり遂げるには勇気がある。闘いに勝ち、大陸を耕し、国を建設するには、勇気が必要だ。絶望的な状況を勇気によって克服するとき、人間は最高の存在になるのである。(『エリック・ホッファー自伝』中本義彦訳)

※エリック・ホッファー(1902-1983)は、アメリカの社会哲学者・港湾労働者。本書中、季節労働者としてアメリカを渡り歩いた時代の図書館や本をめぐるエピソードがたいへん興味深く、オスス。私の生涯のベスト10冊に入ります。

53

15 希望、絶望そして勇気

④ T市図書館の3ステップ・イノベーション

- ステップ1(2002-2009) 資料貸出主導・顧客志向
「貸出制限の緩和」「レファレンス記録とリクエスト対応の徹底」
 - ステップ2(2010-2017) 課題解決支援主導・連携志向
「元気はいたつ便」「行政・議会支援」「生涯読書推進計画」
 - ステップ3(2018-) 「地域知」形成主導・協働志向
「タハラペディア」「ふるさと教育推進ネット」「市民アーカイブ支援」
- 先行ステップの成果を批判的に継承しつつ、次のステップへ！
- みなさんの図書館は、今、どのあたりにいますか？

54

6 ワークショップ

「受講予定者の学びたいこと、お悩みから」(0参照)のうち、A班は1と2、B班は3と4、C班は5と6について、話し合います。

- 1 それぞれの担当する「お悩み」について検討し、定義直します。(各班に割り当てた「お悩み」には似通ったところがあります。)
- 2 定義直した「お悩み」に関し、自分自身の経験を出し合います。
- 3 講義や各自の経験を参考に「お悩み」への「お答え」を考えます。
- 4 各グループで定義した「お悩み」「お答え」「お答えの根拠」の要約を模造紙に書き出し、発表していただきます。